

事例 ● 週一活動 互いに見守る

分類：

居場所

アウトリーチ

相談

学習支援

見守り

住民主体

運営団体基本情報

● 運営団体名	ひまわり会	● 代表者名	齋藤 とよ子	● 所在地	栗原市瀬峰新下田97-1
● スタッフ構成	会員18名 内スタッフ4名	● 運営財源	自主財源、栗原市社会福祉協議会助成金		
● 連絡先	TEL: 0228-59-2322 Mail: hi-sasaki@kurihara-sfk.or.jp		● ホームページ (参考情報)		

新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要

● 対象者層	制限なし 主に地区内後期高齢者	● 活動頻度	週1日	● 活動場所	瀬峰公民館
● 活動の形態	お茶っこ会、介護予防体操	● 平均利用者数	10名	● 利用料金	400円/回

【活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策】

具体的な活動	●新型コロナウイルス感染症拡大前	「健康寿命を一日でも長く」を合言葉に、毎週決まった曜日に集まり、お茶のみしながらの話し合いを中心にゲームや介護予防体操などいろいろなことに取り組んでいた。
	●新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫	<p>自粛期間内は活動休止していたが、運動不足にならない様手軽にできる軽体操チラシを配布しながら声掛けを行った。配布は少人数での訪問とし、マスク着用や消毒などに心掛けながらも、再開時期の検討のため会員との連絡をこまめにとっていた。</p> <p>活動再開後、室内の換気、手指消毒、マスクの着用、互いの距離をとることなどに気を配り実施。 開催時間を短縮、活動も密にならないような内容を相談して行うなどの工夫をしている。</p>
●取組の効果	いつも決まった曜日に活動することで互いの暮らしや体調を自然に気にかけて見守り合う事ができていた。活動を休止していた間も互いに気遣いあう気持ちを持ち、連絡を取り合っていた。再開してからは会って、集まって、話すことがとても大切だと実感し、前以上に健康に気を配り、笑いあえるように活動されている。	

● 活動経費	栗原市社会福祉協議会助成金 50,000円 事務、消耗品等は助成金から、昼食代等は参加費より負担している。
● その他、特記事項	<p>★市町村基本情報</p> <p>宮城県栗原市 県北部に位置し、市の面積が県内最大の約800平方km。自然と四季のうつろいが大変美しい高原都市。 人口 66,565人 高齢化率39.7% (2020.4末)</p>

